

平成15年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰 受賞者一覧

技術開発・製品化部門

	受賞者	功 績
1	トヨタ自動車(株)	量産ハイブリット車の開発進化販売は、自動車の地球温暖化防止への取り組みの顕著な成果であると評価できる。 燃料電池車の開発への展開もこの取り組みの成果である。
2	松下電器産業(株)	冷蔵庫分野において、地球温暖化係数が低い炭化水素系冷媒の商品化に成功し、国内冷蔵庫ノンフロン化促進の流れを作り出し、業界で初めてノンフロン冷蔵庫のフルラインナップを完了させた。また、同時に高性能真空断熱材を開発し、大幅な省エネを行った。
3	(株)デンソー	家庭用エネルギー需要の約3分の1を占める給湯分野において、大幅な省エネルギーを可能にするとともに、オゾン層保護や温室効果ガス排出抑制に貢献する画期的な製品である、家庭用自然冷媒(CO2)ヒートポンプ式給湯機を世界に先駆けて開発し量産に成功した。
4	ダイキン工業(株) 空調生産本部 店舗システムグループ及び開発 信頼性グループ	コンビニエンスストア向けの冷凍・冷蔵・空調一体型の熱源ユニットを開発した。従来のコンビニエンスストアで一般的であった冷凍、冷蔵や空調の別々のシステムを「複合システム化」の技術により1つのシステムでの実現に成功した。これにより年間での電力消費量を半減するなど大幅な省エネルギー化が達成できた。
5	鐘淵化学工業(株)	オゾン層保護とともに、地球温暖化に対する影響のない発泡剤を用いた世界初の完全ノンフロン発泡剤による高断熱性の押出法ポリスチレンフォームの開発や、発泡剤に依存しない熱伝導率抑制技術として世界で初めて、微細気泡と粗大気泡が海島状に混在する複合セルの構造を具体化した。

対策技術普及・導入部門

	受賞者	功 績
1	エコ・パワー(株)	創業以来6年間を経過し、今年、むつ小川原および岩屋それぞれのウインドファームが稼動を始め、風力発電の分野では日本でNo1を占めることになった。 温暖化防止技術の開発と普及に顕著な功績と認められる。
2	(株)ニューオータニ	エネルギーシステムの有効利用や生ゴミの減量化、水のリサイクルなどの独自のリサイクルシステムを創った。生ごみは100%リサイクルし、生産した飼料・肥料を農家に販売し、それらを使用した生産した野菜などを食材に利用している。
3	東京都市サービス(株)	都市のエネルギー供給における蓄熱システムによる電力負荷平準化や未利用エネルギーの有効活用など、その時代のトップランナーを目指し、環境にやさしいシステムを導入し続けている。特に、「晴海アイランド地区」の熱供給施設においては、高効率ターボ冷凍機、日本最大級の蓄熱槽、インバーターなどの効果的な組み合わせによるCO2排出量の大幅削減を達成した。
4	東海旅客鉄道(株)	会社設立以来、一貫して省エネルギー化に向けた取り組みを推進してきており、着実な成果を挙げている。特に、300系・700系新幹線車両に代表される省エネ型車両を開発するとともに、今年10月には全ての新幹線車両を省エネ型車両に統一するなど、積極的な導入を図っている。このような取り組みの結果、東海道新幹線運行によるエネルギー消費量は2002年度の実績で1990年度比の16%減(新幹線と在来線を合わせた削減率は14%)となった。
5	富士市 富士商工会議所	天然ガスコージェネレーションシステムの導入推進と過去の温暖化防止対策等によって不用となった煙突の撤去推進という温暖化防止対策のモデル事業として、静岡県の産業部門からの二酸化炭素排出量の約4分の1を占める富士市の二酸化炭素排出量を削減するため、行政・民間が協働で計画を策定し実行している。

対策活動実践部門

	受賞者	功 績
1	エームサービス (株)	環境省のリ・スタイル運動に賛同する形で、2003年3月より、地元企業の(株)梅乃家、(有)サン・ウイング、(有)田中企画、ヤマウチ調理食品(株)の協力を得て、大分スポーツ公園総合競技場にリユースカップを導入し、温室効果ガス、廃棄物、水使用量等の削減に挑戦している。売店のサーバーからリユースカップに注いで販売する方法に切り替えることにより、年間約3万5千トンのCO2が1万トンに削減できることになる。今後日本全国のサッカー場、野球場でもリユースカップの導入を検討しており、国民のライフスタイルを見直す象徴的な事業活動となっている。
2	川口市民環境会議	2000年より毎年市民、児童、生徒を中心とした1日環境にやさしい活動「エコライフDAY(年に1日、川口市民みんなで地球温暖化防止のための二酸化炭素を減らそうという取組)」や小中学校にて地球温暖化問題などについてわかりやすい出前授業を実施し、地球温暖化問題への取組を積極的に実施している。
3	二見町(三重県)	二見町は、地球温暖化の防止、町民の環境意識の高揚、低年齢時からの環境教育等を目的に、三重県と「環境創造活動を進める三重県民の会」が協働で実施する「夏のエコポイント事業」(節電で地球温暖化防止をめざす環境県民運動)に県内では唯一町ぐるみでの取組を展開しているほか、町独自で「廃食用油のBDF」(廃食用油を公用車燃料として再生利用)に取り組む等、地球温暖化対策の積極的な実践を行っている。
4	地域ぐるみ環境ISO研究会	ISO14001や地域独自の環境マネジメントシステムの普及拡大による地球温暖化防止をはじめ、飯田市や南信州広域連合と連携して点から面の地域ぐるみでの民間主導のボランタリーな環境改善活動を展開している。
5	生活協同組合お おさかパルコー プ	地球環境保全のため、事業者としてISO14001認証取得運用、低公害車の増車、環境配慮型事業所の建設、環境配慮商品開発、店舗のエコショップ登録やマイバック持参運動、共同購入注文書・牛乳・紙飲料パックの回収・リサイクルなど省エネ・省資源活動や組合員による省エネチャレンジノート(簡易環境家計簿)など、環境負荷低減活動に積極的・持続的に取り組んでいる。

環境教育部門

	受賞者	功 績
1	学校法人 美哉 幼稚園	平成8年度から環境教育を取り入れてきたが、平成10年度から幼稚園教育の中に体系的に環境プログラムに取り入れ実践し、効果をあげている。幼児期からの環境教育の重要性を示している先駆的モデルケースである。
2	長野県長野工業 高等学校 環境 システム班	エネルギーの有効利用の観点から、ソーラーカー、燃料電池車の研究開発を続けており、さまざまな競技会に出場し、めざましい成果を上げている。また、多くの環境イベントにも積極的に参加し、地域の人々の環境に対する意識向上に努めている。
3	(株)損害保険ジャ パン (財)損保ジャパ ン環境財団	多くの市民が、環境問題を理解・認識し、それぞれの立場で問題解決に向けて行動できるようにと考え、環境NPO(社)日本環境教育フォーラムと共同で、「市民のための環境公開講座」を、1993年から継続して開催し、これまでに約7,600名の市民が受講している。

学術部門

	受賞者	功 績
	該当なし	

国際貢献部門

	受賞者	功 績
1	中国同人館	砂漠化が進む中国西北部で「みどり遣唐使」と名付けた訪問団を派遣し、植林活動を続けている。現地のボランティア団体や中国の子供たちと一緒に植林活動を続けている。